

第1回検討会、3月の意見聴取における主なご意見と対応

第1回検討会における主なご意見と対応 (1)

	主なご意見	対 応
(1)	<p>気候変動に対応した対策を考える場合は、降雨規模がある閾値を超えると一気に大規模な土砂災害が発生するような地域(例えば、平成25年伊豆大島の土砂災害など)についてどう対応するか考えることが重要ではないか。</p>	<p>・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映</p>
(2)	<p>土砂生産と降雨量の関係について示されているB地域のグラフについて、土砂生産を引き起こす降雨量の閾値はもう少し大きく、A地域の土砂生産量の上限値よりもさらに大きく、鋭く立ち上がるのではないか。A地域は西日本の酸性岩類の地域、B地域は西南日本、東北日本にあるテフラの堆積する地域、火山岩類の地域、付加体の地域等と想定できるのではないか。</p>	<p>・第2回検討会資料に反映 ・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映</p>
(3)	<p>降雨については気候変動によるIDFカーブ(降水強度、継続時間、頻度曲線)の変化について結果が示されてきているが、それに対して流域の土砂生産量がどう応答するかモデルをつくることがまずは解決すべき課題ではないか。</p>	<p>・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映</p>
(4)	<p>土砂生産や降雨量の関係について降雨量の指標を地質毎に検討する場合は、多くの地質を対象とすると複雑になってしまうため、どの地質を対象としていくか地質の分類はできるだけ限定して検討するべきではないか。</p>	<p>・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映</p>
(5)	<p>流域から出てくる土砂量と降雨量の関係は水とは異なり非線形であること、気候の変化による災害の形態変化や今まで起こりづらかった現象(緩勾配斜面における地すべりなど)が起こりやすくなるなど、「非線形性の解明」や「現象の変化の解明」をキーワードとして検討していくべきではないか。</p>	<p>・中間とりまとめ案3.、4. に反映</p>

第1回検討会における主なご意見と対応 (2)

	主なご意見	対 応
(6)	<p>各災害のスネークラインやデータ(誘因、生産・流出プロセス、雨量、地質など)を整理することが重要ではないか。特徴的なものだけでなく網羅的に整理にするためにも、例えば、犠牲者〇〇名以上の災害をピックアップし、各災害について影響が大きかった土砂移動現象(土砂・洪水氾濫、単発の土石流など)、それが発生した際のスネークラインを整理すべきではないか。</p>	<p>・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映</p>
(7)	<p>土砂・洪水氾濫、深層崩壊が発生するスネークラインの形状やCLとの位置関係について検討すべきではないか。その際、深層崩壊のように総雨量が大きい場合は土壌雨量指数が頭打ちになってしまうため、実効雨量で検討するのも一つの方法ではないか。</p>	<p>・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映 ・降雨指標については、課題解決のための検討の参考とし、今後の検討を進めて参りたい。</p>
(8)	<p>緩勾配の斜面で起こるような崩壊についても湧水が効いているためそのような指標により、警戒区域外の危険性がわかるような取組が必要ではないか。</p>	<p>・着眼点を中間とりまとめ案4. ②に反映</p>
(9)	<p>群馬県富岡市内匠地区の崩壊性地すべりのようにテフラが堆積している箇所斜面災害は、テフラが残存する緩勾配斜面でかつ風化が進行しているところにおいて危険性が高い。過去の火山の噴火史等を基に、テフラの堆積範囲、厚さ、斜面勾配を調べれば事前に危険性を把握することができるのではないか。</p>	<p>・着眼点を中間とりまとめ案4. ②に反映</p>

3月の意見聴取における主なご意見と対応

	主なご意見	対 応
(1)	顕在化する土砂移動現象の地域性の解明について、対象とする土砂移動現象については、一般的な土石流やがけ崩れまで網羅するのではなく、例えば近年における象徴的な土砂災害をとして「土砂・洪水氾濫」「同時多発表層崩壊・土石流等」「崩壊性地すべり」「深層崩壊」について焦点を絞るというのも一つの考え。	・中間とりまとめ案1.、2. に反映
(2)	土砂移動現象と地形地質にかかる既往災害に関する情報収集は、客観性を持たせるため、犠牲者数等一定の定義で線引きした上で悉皆的に情報収集し、単発の土石流やがけ崩れ等も含め、降雨や地質地形との関連性を見ていくと良い。	・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映
(3)	解析雨量のある時期を優先的に整理・分析を進め、その結果、例えば花崗岩類については十分な事例が集まり、それ以外で集まらないといったことが浮かび上がるだけでも一つの成果ではないか。その上で、遡ってデータ収集し分析を深めていくようなアプローチも考えられる。	・着眼点を中間とりまとめ案4. ①に反映
(4)	これまでは流出しなかったような溪床堆積土砂が、洪水流量の増加によって流出するようになったようなタイプの生産形態も想定され、現場現場でも異なると考えられ、生産プロセスをよくみておくことが大事。	・課題解決のための検討の参考とし、今後の検討を進めて参りたい。